

教会の誕生

使徒の

働き 2 章1～13節

五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。使徒2：1，2節

今年は4月12日（日）がイースター、それから40日経って

5月21日（木）が昇天日、さらに10日経って（イースターから50日目）

5月31日（日）がペンテコステです。

ペンテコステ、すなわち聖霊降臨日。イースターから50日目ということで五旬節とも呼ばれ、教会が誕生した記念すべき日でもあります。そしてこの日以来、教会は全世界に増え広がり続けて行きました。こうして、いよいよ教会の時代、聖霊の時代となっていくのです。

——— 2つの教会

さて、聖書には2つの教会が記されています。

1つは、目に見えない教会です。世界でただ一つ、普遍的な教会、歴史を超えて世界中の信者の全てが属している教会（天国の民と同じ数）、アダム、エバから始まった教会です。

2つ目は、目に見える教会、ローカルチャーチ（地方教会）です。エルサレム教会、浜松福音自由教会、

等々、がこれに属します。

目に見えない教会に属している兄弟は、目に見える教会に属することができます。この逆はありえません。ペンテコステから目に見える教会は始まりました。ペンテコステは目に見える教会の誕生日なのです。

さて、この記念すべき日のために、神様の側では長い計画と準備がなされていました。

——— 神様の側での準備

備 ———

・第1に、神様は800年も前に、預言者ヨエルを通して教会誕生を預言しておられました。

ヨエル2：28, 29節「その後、わたしは すべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。」（使徒2：16～18節、読む）

・第2に、神様は、五旬節の時、つまりイースターから50日目をその日に選んでおられました。

実はその日は旧約時代、過越の祭りの日から、50日目、イスラエルの民がホレブ山で律法をいただいた日と同じ日でした。ということはペンテコステの日は、石の板に刻んで読ませる律法の時代が終わって今度は、信者一人ひとりの心に聖霊が宿り、その心にみ言葉を刻（きざ）む時代が始まったという事を教えているのです。ですから、私たちは聖書を読む時に、心に語りかける御霊様のお声に、心の耳をすませて聞かなければなりません。みことばは聖霊に教えられなければなりません。

——— 神の心と人の心が1つになった時

時 ———

さて、第2歴代誌16：9 には、次のように書かれ

ています。「主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心がご自分と全く一つになっている人々に御力を現わしてくださるのです。」神の業が、この世界に起こされる時、それはいつも、神のご計画と私たち人間の側の備えが（神の思いと人の思いが）1つとなる時です。

——— 人間の側での備え

え ———

さて、ここにイエス様が語られたみことばに忠実に従った120名の人々がいました。ご存じの通り、イエス様の12人の弟子たち、主を愛した婦人たち、イエス様の身内の者たちです。この人々はイエス様のことばを信じてエルサレムの一つ所に集まり、心を合わせて、祈りました。この人々の上に、いよいよ神の 때가満ちたのでした。そして、ペンテコステの出来事が起こりました。どの様なことがおこったのでしょうか？

——— ペンテコステ、3つの

現象 ———

聖書は、その出来事を次のように記しています。

・第1に、2節、「すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。」神は先ず人間の聴覚に訴えて、この奇跡をなさいました。

ユダヤ人の祭りの日、五旬節のこの時期には、（過越の祭り、7週の祭り（過越の祭りの後、50日目に始まる）仮庵の祭りを祝うために）世界中から人々がエルサレムに集まっていました。ところがこの物音によって、町中の人が一斉にこの家の周りに集まって来ました。

聖霊は見えません。しかし、音でわかりました。「彼らが座っていた家全体に響き渡った。」と書かれています。今、天からの響きは家一杯、すなわち教会全体に響き渡ったのです。

聖霊は教会に下りました。ここから教えられることは、教会を離れて自分ひとりが聖霊を受けていると思いがってはならない、ということです。今、町中の人がこの爆発音によって教会が聖霊に包まれている光景を体験したのです。

・第2に、3節「また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。」

更に集まってきた人々はそこで驚くべき光景を見ました。何と120名の祈っている人々（あの人、この人）の上に聖霊が（炎のような分かれた舌が）下っているのです。

今神さまは、人間の**視覚**に訴えて、目には見えない聖霊の神さまを見せてくださいました。聖霊は教会に下り、更に一つとなって祈っていた一人ひとりの上にとどまったのです。ここから教えられることは、教会を離れて自分ひとりが聖霊を受ける事が出来るとはならないということです。聖霊が教会全体に注がれていることを確信し、その教会に根づいた信仰生活を送る事が大切なのです。

・第3は、4節「すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。」 今神様は、音と光の外的なしるしの他に、さらに内的な経験として120名のガリラヤの人々が**異言**（他国のことば）を話すようにと導かれました。

人は驚いた ———

(5～12節、読む) 今、海外からエルサレムに来ている人々は、これらの出来事を目撃して驚きました。なぜかと言うと、本来なら外国語を話せないガリラヤ人が、自分たちの国の言葉を話しているのを聞いたからです。その内容は11節です。「あの人たちが、私たちのことばで**神の大きなみわざ**を語るのを聞くとほ・・」きつと、この内容は「・・神が十字架で死んだイエス様をよみがえらせて、救い主としてお立てになったこと」、等々・・、「福音の本質」であつた事でしょう。

以上、これらがキリスト教会誕生の出来事、目に見える教会の歴史の始まりでした。

——— 世界で最初の海外宣

教師 ———

繰り返しますが、これらの出来事すべては、丁度この時期に、エルサレムに世界中から集まって来ていた人々の注目されるその真っ只中で起こりました。ですから、きつとこれらの人々は、自分の国に帰った時、キリストの教会がエルサレムで誕生したことを語った事でしょう。

この人々は最初の海外宣教師であつたのかもしれませんがね。この中にはローマ人もいました(10節)。ということはパウロが、ローマに行く前にすでにローマに福音が届いていたということになります。

——— 教会の使命は、世界

宣教 ———

それにしても、今生まれたばかりの赤ちゃん教会でも、キリストの教会は神の力(聖霊の働き)によって世界宣教の働きをすでに始めていたのです。

そして、いつの時代、どこの地域にあっても、この働きは変わりません。私たちも同じ聖霊なる神様の助けをいただいて、神様の業を行わせていただくことが出来ます。

キリストに出会い、キリストに救われた私たち、4；12節、「この方以外は、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」と語り、宣教の使命を全うして行きたいものです。

聖霊の力によって、共に神様の使命の中に生きる者とされましょう。